



いちようっ子

学校教育目標

強 く—自信をもって心身ともに鍛える子
正 しく—深く考え、進んで学ぶ子
美 しく—思いやりがあり、感動する子

令和元年度運動会、応援ありがとうございました。

校長 吉野 徳子

天候が心配された運動会でしたが、プログラムの急遽の変更等にもかかわらず、多くの皆様の御理解と御協力のおかげで、無事に終わることができました。児童も応援団を中心に、一所懸命に演技に取り組み、応援して下さった皆様に、逞しい姿をお見せすることができました。御来賓の皆様や地域の方々の声援が、とても励みとなりました。ありがとうございます。また、準備から片付けまで御協力して下さった保護者やいちようっ子パパの方々には、本当に感謝申し上げます。

令和元年度運動会も、思い出の一つにしていだければ幸いです。



秋を五感で感じて！

運動会も終わり、本格的に秋が深まる時季。昔から、農耕民族であった日本では、収穫を願う気持ちからも、この秋をととても楽しんできたように思います。また、その楽しみ方も人それぞれ……。それは、目で、耳で、肌で、食感で、香りで……。といったように、五感をフルに刺激される季節だからなのかもしれません。

私は、教職につき音楽科を中心として深く児童とかかわってきました。時には、指導者として教員にお話する機会もいただきました。そのようなとき、いつも伝えていたことがあります。

「音楽科の目標は情操教育です。情操とは、感性を育てるところです。例えば、花が美しい、というとき、美しい花が存在するのではなく、花をみて美しいと感じる心があるからです。

この感じる心を育てていくのが、情操教育である音楽科と美術科なのです。美しいもの、美しい音、美しい表現……と児童生徒とともに追求していく教科です。」

と、偉そうに語っていましたが、自分自身もそのようではなくては、と戒めとしてもこの「感じる心」を大切にしてきました。「感じる心」があれば、相手の心の痛みも感じられるとも思っています。

秋を感じさせるもの……。さわやかな朝の空気、うろこ雲、虫時雨、十三夜、曼珠沙華……。

日本人は、秋の季節を五感で楽しめる時間を自然からいただいているのだから、是非、それを追求し、「さわやかさ」「美しさ」「涼しさ」「もの悲しさ」など、感じていきたいと思えます。

曼珠沙華：彼岸花……。

彼岸近くになると必ず咲く彼岸花。夏の終わりころから道端に花茎が地上に突出して見えはじめる彼岸花。今年は咲きはじめが遅いようですが、先日も、主人のお墓参りのときに、この花を目にして、「彼岸にあわせて咲くこの花は、よくぞ彼岸花といったものだ。」と感心しました。

また、この彼岸花は4年生国語「ごんぎつね」の中にもでてくる花です。主人が4年生の担任のとき、教材用に、現在でも有名な日高町の一面彼岸花の写真をとりに行ったことも思い出します。

彼岸花は、もの悲しさを感じる花です。

人それぞれの思い出も、この感じ方の一つでしょうか??

どうぞ、御家族で、秋を大いに楽しんでください。お父さんやお母さんと感じた秋を語り合ったときのこと、子どもたちはきっと素敵な思い出として心に残ることでしょう。



・ ・ ちょっといい話 ・ ・ ・ 怒りっぽい人が多くなった世の中へ

「ゆるす」

人を許すのが難しいのは、「許」「赦」という漢字が頭に浮かんで、100パーセント認めるか否かを迫られているように思うから。でも、日本語の「ゆるす」は「心をゆるめる」こと。ぎゅっと絞っていた心の入り口を少しゆるくする、そんな心の広げ方が、本来の「ゆるす」の意味です。心が傷ついたとき、「許す」のは難しくても、「ゆるす」ならどうでしょう。「ゆるす」とは、先祖が授けてくれたゆっくり進むという、人生のヒントです。

「日本の言葉の由来を愛おしむ 著 高橋こうじ」より